

長野市民会館50年の記憶

と 新しい記憶 展

Archive of NAGANO CIVIC HALL
1961-2011

2016年4月29日 | 金祝 | ~7月3日 | 日 |

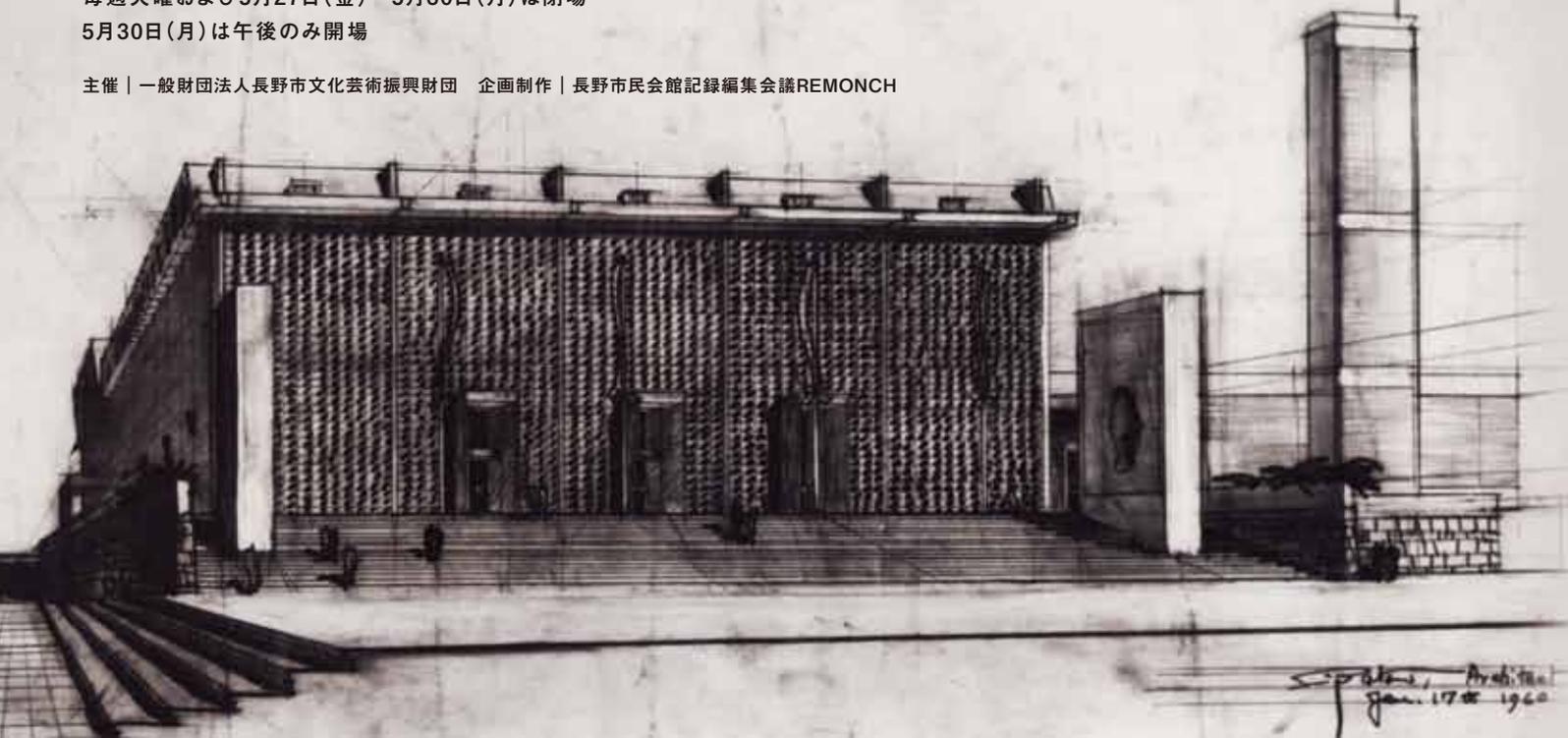
長野市美術館 展示サロン 展示サロンは美術館・長野市役所第一庁舎の1F正面入り口右に位置しております。

11:00~19:00 入場無料

毎週火曜および5月27日(金)~5月30日(月)は閉場

5月30日(月)は午後のみ開場

主催 | 一般財団法人長野市文化芸術振興財団 企画制作 | 長野市民会館記録編集会議REMONCH



開催記念トークイベント
「長野市民会館50年の記憶を未来へ」

講演

「日本の劇場建築の歴史とこれからの在り方、
長野市民会館50年を通じて」

講師 | 藤森照信 (建築家・建築史家)

トークセッション

「未来へ」

藤森照信×松原千代繁 (長野市芸術館総支配人)



藤森照信



松原千代繁

5月30日 | 月 |
19:00～20:30 (開場18:30)
会場 | 長野市芸術館 アクトスペース

参加費1,000円

定員200名

※「長野市民会館50年の記憶」1冊付き

※既に書籍をお持ちの方は持参していただければ参加費無料

会期中
チケットセンターでも
販売中

第4回全国新聞社出版協議会ふるさと
自費出版大賞「優秀賞」受賞
好評につき再版しました。

判型/A5判、88ページ(オールカラー)

価格/1,080円(税込)



展示ヤロンは芸術館・長野市役所第一庁舎の
1F正面入り口右に位置しております。

 **長野市芸術館**
NAGANO CITY ARTS CENTER

〒380-8512 長野県長野市大字鶴賀緑町1613番地

- | | |
|----|---|
| 電車 | 長野電鉄「市役所前」駅下車。2番出口より昭和通りを東へ徒歩約3分 |
| 徒歩 | JR長野駅善光寺口より長野大通りを北へ。「市役所前駅交差点」を右折して昭和通りを東へ。約12分 |
| バス | ◎長野駅前バス停(C-16)より、ぐるりん号で「市役所入口」下車。通りを渡って徒歩約3分
◎長野駅⑤番乗り場より、45番市役所経由北尾島行き、または46番大豆島東団地行きに乗り「市役所前」下車。通りを渡って目の前 |
| 車 | ◎上信越自動車道・長野ICより約20分(8km)
◎須坂長野東ICより約25分(10km) |

「長野市民会館50年の記憶」と「新しい記憶」展

1961年、建築家・佐藤武夫によって設計された長野市民会館は、2011年にその歴史に幕を下ろすまで、50年に渡り多くの市民の人生に寄り添ってきました。いま、建物はなくなりましたが、この舞台に携わってきた人々のなかには長野市の都市文化を創造してきたことへの想いが、「記憶」として確かに刻み込まれています。

わたしたち「長野市民会館記録編集会議REMONCH」は、その記憶の一端を、1冊の書籍『長野市民会館50年の記憶』としてまとめました。

長野市民会館は何を伝えてきたのか。人々は何を考え、何を願い、その建物をつくったのか。そして、そこでどんな営みを紡いできたのか。これらが明確にイメージできたとき、たとえ建物がなくなったとしても、きっと以前よりもかつてあった建物を身近に感じることができるのではないかとこの想いがあったからです。



2016年、長野市芸術館が開館のときを迎えました。真っさらな建物には新しい記憶が積み重ねられていきます。その礎にあるのは、長野市民会館が築き上げた50年の記憶。故きを温めて新しきを知る。リセットではなく、50年の記憶を受け継ぎ、新しい記憶とともに脈々と後世へつなげることが文化を育むことではないでしょうか。

本展では、『長野市民会館50年の記憶』に収録した写真・原稿・図面のほか、長野市民会館に用いられていたレンガ・ブロック・ソファなどを展示するほか、来場者のみなさまにご協力いただきながら、長野市芸術館の未来への願いを綴ります。

(長野市民会館記録編集会議REMONCH)



佐藤武夫 Sato Takeo | 建築家
1899-1972

愛知県生まれ。建築を志して早稲田大学に進学。後に早稲田大学教授に就任。恩師佐藤功一の指導のもと大隈講堂を設計。音響について苦心を重ねた。建築音響工学の先駆者として、日光東照宮の「鳴電現象」を初めて科学的に解明。35年、音響の研究で工学博士号。45年に自宅にて設計事務所を始める。長野市民会館、旭川市庁舎など数多くの公共建築の設計を手掛ける。57年から59年まで日本建築学会会長を務めた。72年逝去(享年72)。

